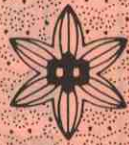


くまざ



湖陵同窓会長 久本 甫

釧路湖陵高等学校創立九十周年並びに 定時制八十周年記念事業に関する件につき

今年には釧路湖陵並びに湖陵定時の記念すべき年にあたります。と云うのはそれぞれ九十周年と八十周年を迎える事になるからです。

十年前の周年事業の時は新校舎落成と未だバブルの時代でしたので、事業資金の調達等には今ほどの苦労は感じなかった事を記憶しております。が今回は違います。十年前とは世の中の経済状態が大変悪く特に釧路はその感が強いようであります。加えて十年後は百周年を迎えます。百周年ともなれば、規模も内容も自と変ってくることでしょう。と云う意味では、私個人としては九十周年は不

必要かとも思っていました。が、役員全員で決めた事ですから、皆で、世話になった母校のためにも一汗流そうではありませんか。



校歌の斉唱に昔の生徒は少し緊張する

過日、釧中三三期・湖陵二期同窓会幹事の花井哲雄氏から、同期だけの会報「笹ノ児」第一号から第十号までを寄贈頂いた。「私達も古希を迎えましたので」というさり気ない言葉に万感の思いが込められていることを知り、氏の本校に寄せる熱き思いに胸が熱くなりました。「五十年振りの友と、『逢えてよかった』と手を握り締めると、お互いに白髪、白髯の相貌が崩れ、その瞬間に時空を超越してしまう。同期の友の誼みとは、私利私欲を超えた人間の崇高な情念の紛れもない発露である」という一文に、同窓の方々の思いが象徴される気が致します。援農、釧路空襲等戦争に関わる思い出の文が多いのもこの時期の特徴ですが、私のように戦後に育った人間からは、正に戦後の復興に



湖陵二期「笹ノ児」から

校長 野村 秀明

熱き思いに感謝して

貢献された世代として心から敬意を表すべき世代として映ります。この会報で物故同期生をその都度報告しておりますが、第八号では追悼法要を営んだ様子が特集されており、その絆の強さに敬服するとともに、人間としての在り方を教わった気が致します。

頂いた会報は、貴重な資料として「湖陵文庫」に展示し、在校生徒に、そうした先輩達の熱き思いがあつて、今の本校が支えられていることを機会あるごとに伝えていきたいと思っております。

現に、この期で現在著名な音楽家として活躍の佐藤昌之氏が、今年も本校器楽部の定期演奏会で指揮を取って頂くことになっております。生徒達は、神様のような存在の大先輩の氏に指揮して頂くことを至上の喜び、誇りとして、練習に励んでおります。本当にありがたいことだと思っております。今年、ご案内のように、本校は開校九十周年の節目を迎え、来る九月二十一日(出)の記念式典に向け、今その準備を進めているところでございます。ご支援をお願い申し上げますとともに、多数のご出席を賜りますようお願い申し上げます。

同期会便り

湖陵四期の巻

湖陵二七ふるさと旅行会

藤原文夫

前夜祭の前夜、用意した宴会場に参加者たった数名という悪夢にうなされた。最大風速二八・八m、降水量六七・〇mmという台風一五号(ダナス)のまっただ中にブチ当たったからだ。九月十一日飛行機はダメ、JRも不通、それでもさすが我が同期、長距離バスを乗り継ぐなど、遅刻者は出たものの申込者のほぼ百分の参加で幹事の胸をなでおろさせた。かくて「湖陵二七ふるさと旅行会(遠藤隆吉会長)」が始まった。

本祭り初日は国際交流センター集合、記念撮影後、東家で昼食。何十年ぶりの東家の味というのもいた。そのあと旧湖陵高校跡地、現校舎、同窓会館などを見学。五〇年前の若かりしころを重ねていた。思い出のシーンは勿論各人各様に違いなかったが「ここが『うさぎや』です」のときに起こったどよめきはおかしかった。予定していた湿原見学は台風による近隣湖沼・河川の異常増水(一部の国道が冠水)のため割愛。目的地の茅沼へも大きく迂回せざるを得なかった。夕刻茅沼温泉入り。この社長は同期の千葉健町長だ。また、初日担当の上原春生氏、頑張ってサンマの取れたてを入手。刺身に舌鼓をうち、カラオケ、思い出話と時の経つのを忘れた。ただ、今日の楽しさを共有できなかったのは鬼籍に入った同期、数十名、そのありし日の一挙手一投足が思い出され、あついてものがこみ上げた。とりわけ前四〇周年記念旅行会のプランナー仲谷一男氏の今回直前の死去は残念で言葉がない。併せて、心からのご冥福を祈念させていた

ダナス(台風15号)の中で盛り上がる

平成13年9月12日~14日

二日目は多和平、摩周湖などを見学の後、滝澤泰雄氏の手配で阿寒湖畔温泉鶴雅泊。二日目担当の清水英治氏の挨拶でスタート。女性軍企画のゲーム、豪華賞品で盛り上がった。三日目、阿寒湖遊覧、そういえば地元においても阿寒湖の遊覧船に乗ろうなんて考えたこともなかった。が、本州在住同期生からはこれと東家のそばというリクエストが多かった。打ち上げは釧路らしく、MOO。ジャパンビアグランプリ・銀賞受賞の地ビール、サンセットレッドエールで乾杯、別れを惜しんだ。東京方面からの参加二三名、札幌方面一八名、地元釧路が三五名、計七六名の参加だった。熊谷修事務局長発の文書は千通を超えた。(同会は最後の旧制中学校・女学校の入学者。従って四年間は最下級生。六年間一緒に過ごした仲間) 男



湖陵27会ふるさと会 平成13年9月13日 於:あかん遊久の里 鶴雅

当番期紹介

湖陵三十期 西村 貞広

意欲十分

奥力不十分

「おい、今年は俺ら三十期が幹事なんだから、同窓会の準備手伝えよ！」

「さう俺達って三十期なのか？ だいたい同窓会なんて一度も出たことないんだから、何も分かんないぞ！」

この一年間、こんな会話が幾度繰り返されたらだろうか。何もこれは特別な例ではない。

およそ同期生の七、八割がこんな調子なのだ。当年取って四十と三歳。社会でも中核の位置を占めるようになり、家庭でも子供たちが手がからなくなかって、そろそろ健康的な不安や、他人事だと思っていた「老後」が現実味を帯びて感じられるようになってきた

年齢である。

大学を卒業してしばらくぶりに帰郷して以来、職場や仕事先、趣味のサークルからプライベートにいたるまで常に母校の先輩に囲まれて過ごしてきた自分してみれば、自分の期はもちろん、どこの誰それは何期で、今年の当番期は何期という程度のことは、営業マンの自社商品知識と同じぐらい必要不可欠な情報であつた。

少なくとも釧路市内に居住する同窓生は皆、こんなものだと思っていたため、あらためて幹事会のために同期生に連絡を取ると、冒頭のようなギャップに遭遇する羽目になり、初めて自分たちが普通ではなかったことに気付いたものの、すでに後の祭り。

二度目の幹事年は実質的な運営のメインとあつて、その楽しさも大変さも以前から諸先輩方に聞かされてはいたものの、区切りの良い三十期の宿命（？）まで覚悟していなかったのはやはり失敗だつた。

いくら周年記念事業の実行委員会が別組織とはいえ、今年が創立九十周年、さらに十年後に最長期として最後の幹事を務める年には、創立百年を迎えることが分かつているのだから、へたな同窓会にはできないという有形無形のプレッシャーがつきまとう。「二度目の幹事年は、同期会を作る絶好の機会だぞ」と以前から聞かされていたから、今回の幹事役も十年後の準備と考えば幾分は気が楽になる訳ないか、やっばり！



当番期 20 期のみなさん

(平成13年8月12日総会にて)

奥田達也(湖陵二期)の
誠愛勇から

室田浩志の巻

(湖陵一期)



たのはざんきに耐えない。

小中高と在学を伴にし、上京後も絶えず会って行動を共にしていた。釧路に帰っても行き来をしていた仲なのに。老境に入ると琴線の響きにもかげりが出るのか。

お互いの(たぎる想い出)を多く秘めながら、私達二人は共に成長していったのだった。

受験勉強に追われている時期のことだったろうか。担任に頼まれたとはいえ、凍てつく釧路の夜、スケートリンク作りに精出す室田をみて「自分には何の得にもなら

幼くして両親を失い、愛されることを知らずに育った彼の性がな

さしめるアンバランスな一面を、のぞかせたものであろうか。

大学卒業後、室田は母校の数学の教師になった。そのころ彼は、「私は理解するのに時間がかかるタイプなので、生徒の立場がよくわかる。生徒の目の高さでの授業に心掛けているので、どの生徒も(わかるよろこび)を味わってくれる」と、よく語っていた。

意志の弱い私なんぞを、上手におだて、その気にさせる。逆に強

湖陵理科の設置を救う

高校長から 初代帯広美術館長

ないことなのに、相変らず、縁の下の力持ちだなあ」と思いながら私も一緒に働かされていたわけ。

また、非行で退学を勧告された級友の嘆願に奔走する彼の姿を見た。競争社会に、余計なことをすると私は思った。少なくとも英才とは言えない彼がコツコツ努力し

て学年一番の成績を保ち釧路卒業時には「行幸記念賞」の銀時計をもらった。その彼が他の救済に力を尽くすことに、むしろ矛盾したものを感じたのである。

い生徒には、厳しく反撥させ、生涯の生きる道への意地を育む。

この彼の教育観が、やがて彼が北海道の教育の中核で様々な改革をする原動力となっていた。

昭和四十年、湖陵高は組合色が極めて強く、生徒の質の良さに、あぐらをかくところがあった。

道から「理科科」設置の申し出があった時、教育の多様化反対路線にあった組合が、絶対阻止にま

わるのは当然。職員会議での大紛糾を予想して事前にオルグを開く

ほどの熱の入れようであったが、沈黙は金」の雰囲気から賛成論は起ころまい、とまで楽観視されていた。太田常喜教諭の論述は一場を圧する。

教頭の「他に意見はありませんか」の声。

四面楚歌。

これでは理科は江南高に行く、と思われた危機一髪の時。

減多に発言をしない室田が、

「今、湖陵に理科が、いかに必要であるか」を論じた。太田の理論に対して、十分間静かに、そして堂々と対抗し、終わった。

いつもの組合のヤジ、怒号はなかった。内田校長が立って、「わかりました。理科に反対の意見、そして賛成の意見、よく聞きました。よく考えさせて下さい。」

これで職員会議が終わり、三日後の朝、校長自らの責任と判断で「理科科を設置します」と発言。

一言の反対も出なかった。

湖陵高の、ひいては釧路人の悪い面、良い面の非常によく表われた名場面であろう。

校長と一教師の信念ある言動。

一人だけの力では難事は動かない。一組織での共通の原理なのではないか。

生徒指導対策室長となって、その対応をまかされた室田。これは、まさに命がけの仕事であり勇気と的確な判断と洞察力を要求されたのである。

今の平穏な高校教育界のなかでは、この修羅場を乗り切った彼の姿は違和感を与えるかも知れないが、いつの世でも平和の土台となつた多くの血みどろの戦をした戦士を忘れてはなるまい。

函館東高校長、道教育庁生涯学習部指導参事、道立有朋高校長を歴任。退職と同時に、初代道立帯広美術館長として、数学教師が、負ん気の室田が、努力により「美術」の世界へ踏み込んだのである。十勝モンローといわれる帯広の地に美術の芽を植えた。

いまも病院の環境管理者としていろいろのライセンスをとり、半ばボランティア的に、弱い人達のために奉仕する、昔から変わらぬい全力を挙げて「なせばなる」の努力、他人のために尽くすその姿勢、そのバイタリティー。

我が友ながら、彼を思うとき、心の底から歓喜の念がよみがえるのである。

「教師は先生。先生と呼ばれる人は、いつまでも、余計なことをしても良いのだ」と突然に思った。

冒頭の文を貫くまで、彼の教育

に対する真の功労を知りえなかつ



社会人となって

鉤路市役所後 藤 寿 志

平成十四年三月卒
(湖陵五四期)

「緊張するなよ」
僕の市役所での生活が、この優しい言葉から始まりました。僕は今、市役所の公園緑地課という所で、毎日自分なりに一生懸命頑張っています。

入ったばかりの頃は、わからない事ばかりで慌ただしい毎日でしたが、職場の先輩方から丁寧な指導で、仕事を教えて頂けたので、少しずつですが、職場の雰囲気にも慣れてきました。

高校を卒業してすぐに社会の一員となった僕にとって、今までの自由で楽しかった高校時代から自分の行動には常に責任を求められる、社会人としての日常に一変して今は毎日が勉強です。

また、悩んだり落ち込んだりする時もあり、

「社会に出るのは早すぎたんじゃないだろうか」とか、「やはり大学に行ってから就職すれば良かったんだらうか」と思う時もありましたが、今では就職して良かったと思っています。

なぜなら職場の先輩や部活の先輩に優しく仕事を教えてもらった

り、優しく接してもらいうちに、「自分もこんな風に人の気持ちにわかる優しい人間になろう」と思うようになって来たからです。

初めて経験する「社会」というもので、わからない時、失敗した時、先輩方が優しい言葉をかけてくれたり、笑い飛ばしてくれた事で、どれだけ救われてきたか、わかりません。今の先輩方に出会えた事で色んなためになる事を日々吸収させてもらっています。

毎日が自由で楽しかった高校時代とはやはり違いますが、「社会」では色々な年齢の方々の色々な考えを吸収する事ができ、高校時代とは違った良さがあるのでその点が僕は就職して良かった点だと思います。

これからも先輩方のたくさんさんの良い所や良い考えを吸収し続けてそして学生生活で得た多くの貴重な経験や思い出を大切に、一人の人間として一歩一歩でも大きくなれるように頑張っていきたいと思っています。



信頼される職員に

鉤路市役所小 松 奈 々

平成十四年三月卒
(湖陵五四期)

私が鉤路市役所に入庁してから、早いもので三ヶ月が経ちました。右も左も分からなかった私でしたが、今は職場にも慣れ、忙しいながらも充実した毎日を過ごしています。

私の所属している国保医療年金課医療給付係では、乳幼児や母子家庭や老人などの医療費を助成しており、当番で窓口立つことも多く、直接市民の方とふれ合うことのできる職場です。希望通りの分野で働くことができ嬉しい反面、窓口に立った時に起こる市民の方とのトラブルに自信を無くすこともあります。そのような時は先輩

に対応して頂いているのですが、いつまでも先輩に甘えていられないので、早く一人前になれるように頑張っています。

市役所で働く人達は、みんな気さくで明るいので、和気あいあいとした雰囲気の中で仕事をすることが出来ます。同期の人とも、仕事帰りにごはんを食べに行ったり

集まりに参加することによって仕事をスムーズに進めることができただけでなく、自分自身を大きく

成長させることにもなるのです。私は就職していろいろなお人とお会い、話しているうちに積極性が身についたと思います。

今、こうして久しぶりに作文を書いていると、毎日授業を受けている高校生はすごいな、と感心してしまいます。社会人になってからは二次関数も使わなければ古文を読むこともなくなるので、一見高校の授業は無意味なものに思えるかもしれませんが、この時期に一生懸命授業や行事に打ち込んだ人こそ、辛いことがあっても投げ出さずに前向きに頑張れる力を持つると思います。

「昨日はどうもありがとうございました」「いつもお世話になっております」など、高校生だった時には絶対に使わないうようなあいさつに最初は戸惑いましたが、あいさつ、礼儀、人と人とのつながりは社会人として不可欠なもので、今では心を込めて言えるようになりました。

進学希望の人も、就職希望の人も、高校生のうちに何にでもチャレンジして、素敵な人になって下

さい。私も、母校で身につけたことを忘れずに、職場仲間や市民から信頼される市職員になりたいと思います。



— 同窓会の先輩諸兄諸姉 —



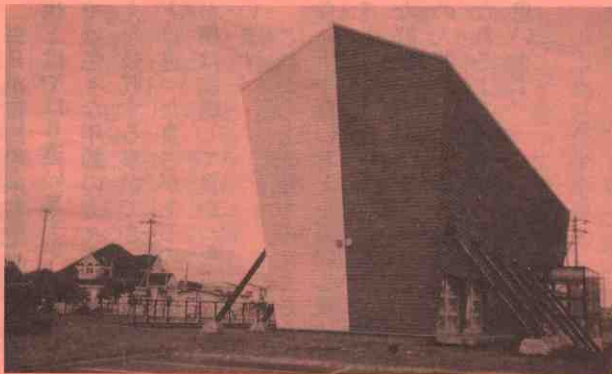
釧路フィッシャーマンズワーフMOO & EGG



釧路市浦見 ふくしま医院



釧路市富士見 反住器



湖陵高校同窓会館

訃報

世界的建築家

毛綱毅曠氏逝く

昨秋九月二日、我らが湖陵高校同窓会館を設計し日本を代表する世界的建築家の一人と評価された多摩美術大学教授・毛綱毅曠（もづなきこう、幼名、一裕）氏が病死、衝撃が走った。同氏は昭和十六年十一月十四日、釧路市（旧富士見町三三）生まれ。湖陵高校を昭和三五年卒業後、神戸大学建築工学科入学。同大学助手をへて独立、その哲学的な作風からポスト・モダリズム（新陳代謝）派の旗手とかポスト・モダンの鬼才と呼ばれ専門誌や週刊誌に載り一世を風靡した。

同氏の作品は全国的に及ぶが釧路管内だけでも反住器（同氏実家）、屈斜路アイヌ民族資料館、釧路市湿原展望台、釧路市立博物館（日本建築学会賞）、釧路市立東中学校、釧路フィッシャーマンズワーフMOO、釧路キャッスルホテル、NTTドコモ釧路支店、釧路市ふくしま医院、白糠町立茶路小中学校（最終作）など公共的建物が多く、東洋哲学に基づいた作風で知られる。

昨秋十月、道立釧路芸術館で同氏の特別展が行われたが享年六十歳はまだこれからと言うべき、その異才が惜しまれた。

（田巻記）

撮影 田巻恒利
（湖陵18期）
撮影協力 H 恵美子
（湖陵13期）



釧路市立東中学校



釧路市浦見4



釧路キャッスルホテル



釧路市立博物館

同窓生の皆さま、いかがお過ごしですか。

「くまざさ」四一号発刊に当たり、学校の様子を簡単にお伝えします。三月一日、五四回目の卒業式が行われ、三五七名の卒業生が学舎を巣立ちました。卒業生の動向は別掲のようになりました。

ところで皆さまもご存じのように、今年度から学校五日制が完全実施されています。湖陵高校もそれに伴い、新しい試みがスタートしました。

まずは二学期制です。今まで慣れ親しんだ夏休み冬休みを挟んだ三学期制から、前期後期の二学期制に変更されました。夏冬休みは今まで通りで、四〜九月が前期、十〜三月が後期となります。学期間には三日程度の休業を取ります。もう一つは五五分授業です。長く続き慣れてきた五〇分授業でしたが、土曜日が完全に休業になり、その授業時間の不足分を補うため五五分で行っています。

また完全に休日となった土曜日に、月二回程度、希望者のみの講習を実施しています。
四月からの概略を振り返ってみます。

〈四月〉

- ・野村校長以下十名の新任教職員を迎えました。
- ・平成十四年度入学式

(新入生 三一九名)

- ・宿泊研修(一年生、川湯温泉)

〈五月〉

- ・教育実習(十七名の卒業生を迎えました。二学期制に伴う定期テスト期間の変更により、今までより三週間早い実施です)
- ・高体連剣根支部予選始まる。(団体および個人で全道大会に進出したクラブは陸上・ハンドボール男女・バレー女子・バスケット女子・バドミントン・テニス・ソフトテニス・剣道・弓道・柔道です。また文化部では放送局がNHK杯で全道大会に進出しました。中でも女子バスケットボールの地区優勝は、十年ぶりの快挙です)

以上簡単な内容となりましたが、ご容赦下さい。また、今後とも母校のため、後輩のためによりよく願います。

〈六月〉

- ・高体連全道大会始まる。(全道大会においては各クラブともよく健闘しました。全国大会に進出したクラブは陸上競技の女子走り高跳びと女子一六〇〇mリレー、ハンドボール女子です。特にハンドボール女子は五年ぶりの全道優勝で八月に茨城県で行われる高校総体に北海道代表として出場します。
- また文化部では、放送局がNHK杯のラジオドキュメント部門で全国大会に出場することになりました。
- ・球技大会(これも二学期制の影響で、今まで七月に行われてきましたが、三週間早い実施です)

卒業生の最終決定人数

	男子	女子	合計
国私立短大校員職営人	45	39	84
公立短大	53	41	94
公立短大校員職営人	10	9	19
公立短大校員職営人	5	8	13
公立短大校員職営人	3	1	4
公立短大校員職営人	1	2	3
公立短大校員職営人	0	1	1
公立短大校員職営人	6	4	10
公立短大校員職営人	4	5	9
公立短大校員職営人	3	5	8
公立短大校員職営人	1	0	1
公立短大校員職営人	6	4	10
公立短大校員職営人	17	18	35
公立短大校員職営人	7	4	11
公立短大校員職営人	3	3	6
公立短大校員職営人	4	3	7
公立短大校員職営人	1	1	2
公立短大校員職営人	0	1	1
公立短大校員職営人	6	4	10
公立短大校員職営人	17	18	35

齢九十に想いを寄せて

教頭 古屋 睦雄

先日、協賛役員会で高齢の方(元全日制同窓会会長の古谷武一様)出席され、色々とお話を伺ったところ、今年で満九十歳になられたことや、私と苗字が同音ということで一層親近感を深めました。また、威風堂々とした風格と矍鑠とした対応は、当時の様子を醸し出し、十分にその意が伝わりました。

正に、この湖陵高校の誕生と歴史が同じで、何かしらの因果と歴史の深淵を垣間見る想いと、古谷様が無きに学びの舎を愛おしく想い、駆けつけてくれたことに胸が熱くなるとともに、湖陵の幾多の先人達が構築していった伝統を、更に発展継承させるべき責務を感じました。また、周年事業をとおして多くの方々の懐古の声と叱咤激励とが交錯したご意見を拝聴することができ、湖陵高校の一員として次なるステップへの新たな意欲が湧いてきています。

さて、湖陵高校は今年で創設九十周年・定時制八十周年の節目にあたり、その周年事業として別添のような計画を立てました。各期の同窓会を通じ、記念式典・祝賀会等をご案内しているところであります。同時に趣意書に示してい

ますように周年事業を成功させるために、ご寄付をお願いしておりますので、ご理解とご協力を節にお願ひするところであります。

高校生の年代は人生の中において最も多感な時代、何時の世も変わらずに、学友は・恩師は・学舎はときを経ても色褪せることなく久遠の輝きを放ち、母校を顧みるものなのでしょう。それだからこそ同窓生の各期の会は会員がいる限り継続をしていき、益々活発な活動を展開するものと思われま

湖陵高校は剣路管内の中心校として、道内でも注目されています。また、湖陵高校はその責任を果たすべく努力を傾注しています。この周年事業をとおして、湖陵高校が益々発展することを祈願し、今後とも皆様方の絶え間ない温情とご支援をお願いいたします。

穂先 書

本会では、湖陵高校の発展に貢献する観点から、卒業生や関係者の皆様からのご寄付を歓迎しております。ご寄付のお願いは、同窓会事務局にて受け付けております。また、ご寄付いただいた方には、領収書をお送りいたします。

湖陵高校 同窓会事務局

【総会スケッチ】



総会は校歌斉唱に始まり



在校生の合唱に昔を偲び



先輩と後輩が和やかに語合い



三三五五連れ立って帰路へつく

編集後記

同窓会会報「くまざさ」は教職員湖陵会の編集で昭和五五年再刊できた。それ以来、編集に携わり平成五年より久しく編集長を務めた上岡信明氏が本紙第四一号をもって新編集長奥田達也氏にめでたくバトンタッチした。これを機に前編集長の赫々たる功績をたたえ、さらに新編集長の轟々たる手腕に期待されたい。次号より3月・8月の年2回発行予定です。

会報「くまざさ」編集委員会では各期同窓会、各地同窓会の集いの様子、あるいは同窓生諸兄諸姉の活躍の様子を、会報「くまざさ」で取り上げたたく皆様からの寄稿・投稿を心よりお待ちしております。今だから話せる、あの頃、あの秘密「やったあ！頑張った！釧中・湖陵OB&OG物語」「あの人・あの先生に逢いたい」「同期のサクラは自慢桜で満開だ」などなど寄稿テーマは沢山あります。

宛て先は「くまざさ編集委員会」まで。
(田巻記)



(写真右より)
佐藤文昭
上岡信明
奥田達也
奥恒利
上岡信明
田巻恒利
奥恒利
奥恒利
奥恒利

くまざさ編集委員会

同窓会会長 久本 甫 (湖陵七期)

同窓会幹事長 関口政司 (湖陵一〇期)

同窓会会計長 佐藤文昭 (湖陵二二期)

編集委員長 奥田達也 (湖陵一期)

編集副委員長 石川和男 (湖陵二七期)

編集委員 渋谷倫之 (湖陵二六期)

編集顧問 上岡信明 (釧中三〇期)

編集事務局長 田巻恒利 (湖陵一八期)

釧路湖陵高創立九十周年・定時制八十周年記念事業は九月二日に式典と祝賀会を行います。

085-0814 釧路市緑ヶ岡三丁目一番三一号
085-0814 釧路湖陵高事業協賛会へ申込

くまざさ編集委員会

〒〇八五〇〇一四
釧路市末広町二丁目四番地 栄屋旅館内
TEL〇一五四(三)〇二四一番
手動切替FAX〇一五四(三)〇二四二番